

# 2023年度 学校法人福岡建設専門学校 自己評価及び学校関係者評価

## 1. 学校の教育目標

本校は、「人間の力・知識の力・技術の力・感性の力・デザインの力」の育成を目的とし、教育基本法及び学校教育法の規定に従って、工学に関する基礎知識と土木・建築の実践的な専門技術を教授するとともに、広い視野を持ち、豊かな教養を身につけた技術者を養成する。

## 2. 2023年度の重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### (1) 学生個々の適性や能力に応じた教育・指導の充実

- ・基礎学力の向上及び専門分野の知識の習得
- ・資格試験対策授業の実施
- ・社会人として必要となる資質・教養の育成

### (2) 資格取得の推進

- ・全員受験、全員合格を目指した指導

### (3) 就職支援の充実と就職率の高水準維持

- ・就職希望者内定率100%
- ・コラボレーターズ企業による「企業説明会」の定期的な開催
- ・個別の相談及び指導
- ・外部講師によるビジネス講座開講

### 3.評価項目の達成及び取組状況

※学校評価基準： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

#### (1). 教育理念・目標

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	(学校理念) ・学生全員に配布する便覧に記載する学則の内、目的として明記しており、学校ホームページ「FCCIについて」内でも公表している。  (職業教育) ・年2回開催している、シラバス・カリキュラム検討会議で作成した、企業のニーズに対応した教科と実習を取り入れ、社会人教育の一環としてビジネス教育・特別講座を採用している。 ・講義して下さる講師の中には、実際の現場を経験されている方も多く、また、現在設計事務所やコンサルタント業務と兼業しながら講義いただいている方もいる。授業の中で、教科書の知識の習得以外にも、現場の実体験について直接聞くことができる点は、将来の職業についてイメージしやすいと思われる。この非常勤講師が多数いることが本校の職業教育の一つである。
② 学校における職業教育の特色を持っているか	4	
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.7	
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3.7	
⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.6	
<b>学校関係者評価</b> <b>・今後の学生に必要な力について</b> これからはIT化と少子化が進み、AIが当たり前の世代となってくる為、正誤のチェックができなくなる可能性もある。局面毎に、正しいかどうかを個人が判断していかないといけないため、学校が掲げている「人間の力」の育成は大変重要となるだろう。		

#### (2). 学校運営

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.8	(情報システム化) ・統合型グループウェアソフトを導入し、学内の業務効率は向上している。今後はこのシステムに教職員全員がより慣れることが必要。これまでのやり方にとらわれず、可能なものはデータ化して進められるようにする。 ・教務システム導入により、出席入力を各非常勤講師に行ってもらうことで、教員の作業負担軽減になっている。今後は、成績の入力も非常勤講師に行ってもらうことで、更なる業務の効率化を図る。
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.7	
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	3.7	
④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.6	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.5	

⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.6	
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7	
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.8	
<b>学校関係者評価</b> ・学校側の改善案について特に意見なし		

### (3). 教育活動

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.8	<p>(教育課程・カリキュラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目については専門分野ごとに分類して体系化している。専門士称号を取得する基礎時間数を確保しており、建築科昼間・建築科夜間は国家資格(一級建築士)受験資格要件の科目と単位数を組み入れている。シラバスに各科目の到達目標を明記している。</li> <li>・年2回、業界関係者で構成されるシラバス・カリキュラム委員会により、シラバス・カリキュラムを半期ごとに検証。業界の実情に合わせた外部の声を聞き入れるようにしている。</li> </ul> <p>(授業評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の意見の聴取は、現状専任教員によるヒアリングのみで、授業評価やアンケートは行っていない。授業アンケートについては今後行うかどうかの検討を行う。</li> </ul> <p>(教職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の内部研修は行っていない。定期的な外部機関への教員研修が必要と思われる。各自のタイミングで積極的に参加を心掛け、研修後は他の教職員へ情報共有を行うようにする。</li> <li>・新任教員は着任後2年間、単位取得必須の「新任教員研修」を受講している。</li> <li>・毎年、全国専門学校土木教育研究会と全国専門学校建築教育連絡協議会には教員1名が参加し、情報収集や意見交換を行い、学内全体への情報共有は行っている。</li> </ul> <p>(資格取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動については、就活と資格取得をメインに推進している。特に、資格取得では、国家資格の必要性を教育し、社会に出てから自分の武器として活用できるように指導している。</li> </ul> <p>(教員の人材確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土木学科教員募集に対し応募がなく、人員が確保されていない。</li> </ul>
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.7	
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.6	
⑥ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技実習等)が体系的に位置づけられているか	3	
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.2	
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.9	
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8	
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.5	

⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3.6	
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.3	
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	3.2	

学校関係者評価

・教職員数について

スタッフ(教職員)の数が取り組むことの多さに比べて少なく感じる。

(4). 学修成果

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 就職率の向上が図られているか	4	(資格取得) ・資格取得の意義を伝え、入学当初より意識付けを図る。模擬試験の成績に応じた課題を与え、学生個々のベースアップを図り、資格取得率の向上を目指している。
② 資格取得率の向上が図られているか	3.6	・夏休み期間等、資格取得に向けた対策講座を行っている。 ・資格取得率も2級土木施工管理技術検定・2級建築施工管理技術検定の一次検定、2級建築CAD検定、建築積算士補、二級建築士試験の対策授業をカリキュラムに組み入れている。
③ 退学率の低減が図られているか	3.3	(退学率) ・退学率も若干ではあるが高くなりつつある。
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	・退学者の低減のため専任教員によるクラス担当制と、カウンセラーの配置を行っている。カウンセリングについては、オンラインで相談できる体制をとっている。
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3.8	(卒業生への対応) ・ハガキやメールなどで追跡調査を行う等、卒業生の動向を確認する方法の検討が必要。

学校関係者評価

・卒業生の資格試験合格実績調査方法について

卒業生の動向を確認する方法として、ハガキを使った追跡調査よりも、今後も使い続けるメールアドレスを聴取し、メールで追跡調査を行う方が今後はよいのではないかと。

・卒業後の資格取得率の評価基準について

同窓会やコラボ企業と連携し、今後は評価基準を決めていく必要があるのではないかと。

(5). 学生支援

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	(就職指導) ・ビジネス講座で履歴書の書き方を学べるとよい。内容確認と添削については、学生が指導してもらえるという受動的な意識でいることが課題である。  (課外活動) ・毎年、福岡県専門学校体育大会への参加を募り、希望者には練習と試合引率の支援をしている。 ・毎年、福岡県建築士事務所協会主催の設計競技への参加を募り、指導を行っている。  (保護者対応) ・1年後期に保護者面談会を行っている。リモートも可能。 ・出席不足者、成績不振者については個別に保護者に連絡を取り、連携している。  (卒業生への支援体制) ・個別に相談があった場合は対応しているが、同窓会を含めて卒業生全体への働きかけはできていない。
② 学生相談に関する体制は整備されているか	3.8	
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.4	
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.2	
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.2	
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	3.5	
⑦ 保護者と適切に連携しているか	3.5	
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	2.6	
⑨ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3.5	
学校関係者評価 ・卒業生の支援体制について 卒業時に幹事をきちんと決め同窓会組織を固めていけば、卒業生や先輩方からアドバイスを貰える等、将来的に良い循環ができてくると思う。		

(6). 教育環境

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	(建物整備) ・長期的な建物修繕計画が立てられておらず、今年度、全体点検を実施。様子を見る程度のものもあるが、速やかに修繕の必要があるものは、今年度工事を実施予定。  (PC環境) ・3階学生用パソコンを授業に必要なスペックへ引き上げる為買替え。建築科はBIM設計の授業が可能となった。  (実習場) ・実習場は現在土木学科のみが使用しているが、将来的には建築学科でも使用できるように検討したい。
② 学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	3.4	
③ 防災に対する体制は整備されているか	3.7	
学校関係者評価 ・学校側の改善案について特に意見なし		

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 学生募集活動は、適正に行われているか	3.6	(高校訪問) ・高校訪問回数をコロナ後充実させており、教職員で担当区域を割り当てて実施しているが、教職員数が少ないため九州各県を回るには難しい部分がある。
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.7	(ホームページリニューアル) ・ホームページのリニューアルを行い、高校生がアクセスし易く、わかり易いものになっている。サイト内で卒業生の声や、入試日程・方法等を詳しく説明している。
③ 学納金は妥当なものとなっているか	3.8	(学納金) ・学納金は現状適正と思えるが、経済的理由により進学を断念する学生がいないよう、国の政策・補助等は注視していきたい。
<p>学校関係者評価</p> <p>・今後の学生募集について 今後、土木建設業は外国人人材が増加する見込みがある為、学校側の外国人の方の受け入れについて検討してもよいのではないかと。</p> <p>・オープンキャンパスの開催方法について 保護者が参加できるよう夜にオンラインで開催しているところがある。オープンキャンパスの開催方法については今後学内でも検討してよいのではないかと。</p>		

(8). 財務

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	(収支計画) ・入学者増加を目的とした、入学金免除及び半額免除等の各種推薦制度を今年度から復活させている。専願で受験してくる学生を取り込めるよう期待しているが、2024年度の入試結果が出るまでその効果はまだ不明である。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3.2	
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	(財務情報公開) ・2024年度から前年度の財務情報をホームページ上で公表している。
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	3.7	
<p>学校関係者評価</p> <p>・学校側の改善案について特に意見なし</p>		

(9). 法令等の遵守

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.8	(自己評価) ・2023年度分より自己評価結果の公表を行う。自己評価は教職員全員を対象に実施し、集計後評価委員の方々からご意見をいただき、その結果について教職員全員が共有し今後の運営に繋げていく。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.6	
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.6	
④ 自己評価結果を公開しているか	3.5	
学校関係者評価 ・学校側の改善案について特に意見なし		

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価	課題・改善方策・特記事項
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	(ボランティア活動) ・永年同じ場所で学校運営をしているが、社会貢献・地域貢献に関しては何もしていない状況。 ・今後、ボランティア募集案内を入手した際は掲示し、学生へ積極的に声掛けを行う。  (公開講座) ・学内の展示教室を使用し、特別講座「ドローン講座」を行った。 ・2023年度は高校生やセカンドキャリアを目指す方、建設業界に興味のある地域の方へ向けた全6回の特別講座を学外で初めて実施した。新聞での募集という方式をとることで、社会貢献をしている学校というイメージアップにつながったと思う。
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的実施しているか	3.3	
学校関係者評価 ・学校側の改善案について特に意見なし		

■学校関係者評価委員会開催

・2024年9月4日(水) 福岡建設専門学校 展示教室

■学校関係者評価委員

	氏名	所属
教育有識者	坂井 猛	九州大学大学院人間環境学府 教授
関連業界関係者	武石修吾	松山建設株式会社 総務部副部長
	松藤泰輔	元福岡県建築都市部技監
関連業界関係者 ・卒業生	中村隆元	中村工業株式会社 代表取締役

※敬称略